

第19期・第20期 新旧理事 監事合同会議 議事録

日時 昭和53年7月17日(月) 14.00~15.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 朝倉, 内田, 植村, 奥田,
河村, 門脇, 杉本, 関根, 立平, 新田, 松本,
増田, 山下 各理事
藤田, 当舎 各監事

報告

[庶務]

- 5月31日, 文部省学術国際局長から, 昭和53年度科学研究補助金(研究成果刊行費)の交付内定について通知がきた(193万円)。
- 7月6日, 片山選挙管理委員長から, 日本気象学会第20期役員選挙の結果について報告がきた。
- 7月6日, 日産科学振興財団から, 第5回日産学術研究助成候補者推薦依頼がきた(〆切11月30日)。
- 7月12日, 片山選挙管理委員長から, 日本気象学会定款細則(第7条5項)に関する検討依頼がきた。
- 7月31日, 塩谷正雄会員(日本大学)から, 風工学に関する第5回国際会議のお知らせの機関誌への掲載方依頼がきた(1979年7月8日~13日於米国コロラド)。
- 7月14日, 東レ科学振興会から, 昭和53年度科学技術賞ならびに研究助成候補者推薦依頼がきた。(〆切11月15日)
- 7月14日, さる6月26日付で定款の一部変更申請を文部大臣あて提出しておいたところ, 7月13日付で認可された。

議題 引き継ぎ事項

- 選挙管理委員長から, 日本気象学会細則第7条5項によって候補者以外の会員を投票できることになっているため開票に繁雑さを感じたので, 細則改正の検討依頼があった。これに対し, 外国人会員の選挙権, 被選挙権等の取り扱いも含め, 新理事会に申し送ることとする。
- 気象集誌
 - 1) 年度の頁数を見積もって昨年12月に文部省へ報告。今年度は560頁申請したのでこれに近づけるよう努力する。
 - 2) 投稿論文数はこの数年間は年60数編で, 今年1

~6月40編である。この調子が下半期も続くとすれば80編となり増える見込みである。

- 3) 来年度の会費の値上げに伴い外国人会費も値上げされる。1冊ずつの購読料と会費との不均衡の是正, 出版物の値上げについての検討を要する。
- 4) ページチャージは, 定着するのに1, 2年はかかる。論文内容のレベルアップに努力したい。英文のレベルアップにも心掛けたい(浅井理事)。
3. 天気
 - 1) 5月号は, 名簿を入れるために本文も多くなり200頁にもなるが, 6月号は40~50頁に落ちてしまう。厚さに問題がある。
 - 2) 4月号に出したような気象衛星関係の写真を数頁出すよう引き継いで検討したい。
 - 3) 広告をもっときれいにしたい。
 - 4) 新しい計画として“エレガントな回答”を求めている。
 - 5) 英文論文(集誌)についてのアンケートを外国人に出してある。まとまり次第検討したい(内田理事代奥田理事)。
4. 講演企画
 - 1) “気候変動”シンポジウムの開催
12月に実施の予定, 午前午後にわたる大きなシンポジウムになる。講演者は, 東北大の田中正之氏, 気象研究所の嘉納宗靖氏等を内定している。地方からも講演者を予定しており, 事後の整理(気象研究ノート, 天気関連)も含め予算措置を必要とする。
 - 2) 公開講座
大学の集中講義を会員用に公開する。有料にして, 講師には十分な謝金を出したい。時期, 内容, 方法は未決定。
 - 3) 大会の研究発表の取り扱い
雲と地震予知などの関連の発表論文の取り扱いは, 現在はセッションの早い方においている。将来は問題になるおそれがあるので, 他学会の取り扱いなど参考にして研究しておいて欲しい(朝倉理事)。
5. 奨励金および各賞
奨励金の受領候補者は3件きているが, 選考会等

のスケジュールについては次期担当理事に渡す
(立平理事)。

6. 教育と普及

7月25～28日の夏季大学には申込者が100名位おり、今後も引き続いて実施する。普及講座は、発足して1年たたないが良い原稿が“天気”に掲載されている。まだ定着するまでに至っていない。何か新しいことを企画してほしい(河村理事)。

7. 大会運営について

- 1) 春季の東京における大会の第2, 第3会場は、狭隘, 空調等不適當である。来年からは他の場所を考慮して欲しい。
- 2) 午前中の講演時間を正午までとする。
- 3) 講演の順序, 分類等検討して欲しい。
- 4) 講演終了時刻の警告はランプ標示とともにベルを活用するようにして欲しい(奥田理事)。